

大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第10回地域生活部会議事録

文責：小松代（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第10回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和6年7月23日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	小松代 菜央	大場 貴弘
	池田 栄美	南雲 好晶	相澤 あゆみ	青山 明子
	広瀬 健次郎	橋本 朋子		
	区事務局：土岐 親跡 齋藤 小西 鈴木			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認、書類確認 ・部会のスケジュールの確認 ・司会-伊藤部会長、書記-小松代委員 <p>(2) 令和5・6年度の活動について</p> <p>「学齢期から成人期への橋渡し」における情報収集について 3人の委員にスピーカーとして、支援者側からの情報提供についてお話しいただいた。</p> <p><u>A委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、進路だより、チラシ配布、校内掲示、保護者会、面談、電話などで情報提供している。 ・卒業後の支援は学校と就労支援センターが支援を行う。卒業後3年間は学校が主としてアフターフォローを実施し、4年目以降は就労支援センターがフォローしていく。 (例：年金などの情報を必要なタイミングで提供。また就労後は連絡帳がないため、学校が親の不安や悩みを聞いて就労先に伝えたり、逆に就労先に訪問して仕事の様子を聞いてそれを親に伝えるなどの役割を担う。) ・支援学校に比べて支援級はクラスが少ないためか、担任が孤立しやすいと聞いたことがある。また、担任に進路に関する具体的な情報が入りにくいことが課題である。 ・不登校や退学者に関しては障害福祉課等の関係機関と連携を図りながら対応している。 <p><u>B委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回保護者会を開催。その他必要なタイミングで情報提供している。卒業後も集まる機会を作っている。 ・「自分の良いところ、活かそうなところ、直さなくてはいけないところ」などの気づきを促し、小学6年生の活動では自分自身の取扱書を作成している。 (→特別支援学校でも就業に際して、合理的配慮を聞かれた時に自分の取扱説明、「こういう配慮をしてもらえたら」と言えるように在学中から伝えている。) ・障がい受容ができる親を増やすために、早めに母親学級などで 			

障害について知ってもらうことも必要なのではないか、また結局は親が情報を取りに行かなくてはいけない、親次第となることもあると考えている。

C委員

- ・相談に来る人→支援機関(特別支援学校や病院等)と繋がっている人が多い。普通学校の教員からの相談も多い。
- ・相談に来ない人→不登校、引きこもり、親や本人が受容していない人など→情報を提供できない。どこまで必要としているかもわからない。
- ・大学は丁寧な対応をしてくれる所が多い。
- ・大人になってから悩む人が多い印象をもっている。成人後は情報を仕入れる所が少なくなるのでは。ネット等の不確かな情報に振り回され本人もどうしたらいいのか決めきれない場合もあるように感じる。
- ・相談を継続的に長期にわたって行うというより、移行支援事業所につなぐこともある。

2 その他

次回専門部会の予定

- ・3人の委員にスピーカーとして、就労や住まい、成人期のサポートの仕方、休日の過ごし方などについて話していただく。

次回開催日

作業部会 9月3日(火)は中止

専門部会 9月17日(火)